

めぐみイエス・キリスト教会

2022年10月23日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第630号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌21「輝く日を仰ぐとき」 p. 28

【交読文】 No.24 詩篇第67篇 p. 898

【賛美Ⅱ】 新聖歌320「世の波風に」 p. 508

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「主の御前に」

【聖書朗読】 使徒の働き20章13節～17節

【礼拝説教】 《アソスからミレトスへ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所 使徒の働き20章13節～17節(新約p. 276下段)

20:13 私たちは先に船に乗り込んで、アソスに向けて船出した。そこからパウロを船に乗せることになっていた。パウロ自身は陸路をとるつもりでいて、そのように決めていたのである。

20:14 こうしてパウロはアソスで私たちと落ち合い、私たちは彼を船に乗せてミティレネに行った。

20:15 翌日そこから船出して、キオスの沖に達し、その次の日にサモスに立ち寄り、さらにその翌日にはミレトスに着いた。

20:16 パウロは、アジアで時間を取られないようにと、エペソには寄らずに航海を続けることに決めていた。彼は、できれば五旬節の日にはエルサレムに着いていたいと、急いでいたのである。

20:17 パウロはミレトスからエペソに使いを送って、教会の長老たちを呼び寄せた。

●ポイント1.「私たち」とは？

※使徒の働き20章4節「パウロと同行した者の名前」 (新約p.276上段)

20:4 彼に同行していたのは、ピロの子であるベレア人ソパテロ、テサロニケ人のアリストアルコとセクンド、デルベ人のガイオ、テモテ、アジア人のティキコとトロフィモであった。

●ポイント2.「アソス」「ミティレネ」「サモス」「ミレトス」とは？

■**アソス** 小アジア西端のムシヤにある港町。ユテコの復活の出来事の後、一行は船に乗ってトロアスを出発した。しかしパウロだけは陸路をとり、トロアスの南25キロのアソスまで行った。

■**ミティレネ** 小アジア西海岸近くにあるエーゲ海のレスボス島の首都。島の東岸にあり、高度な文化を保っていた。

■**サモス** エーゲ海の南部、小アジア西海岸の近くにある島。対岸のミュカレ岬との隔たりは2キロに満たない。パウロはこの島の港に立ち寄った。

■**ミレトス** 小アジア西部、メアンデル川の河口に位置し、エペソの南約60キロにあった港湾都市。新約時代にはアジア州でエペソに次ぐ大都市であった。パウロはこの港に立ち寄り、エペソ教会の長老たちを呼んで感銘深い決別説教をした。後年パウロは再びこの町を訪問している。

●ポイント3.「五旬節」とは？

※使徒の働き2章1節～4節「ヨハネ・マルコの家にて」 (新約p.233下段)

2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような舌が分かれて現われ、一人ひとりの上にとどまった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろな言葉で話し始めた。

※ルカの福音書6章38節「主イエス様の教えから」 (新約p.122下段)

「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえますからです。」

◎先週の礼拝メッセージ【青年ユテコ】

《パウロとルカは、各教会の指導者と愛弟子たちと、トロアスで再会することが出来ました。そして、そこで七日間滞在し、主が復活された週の初めの日である日曜日に、パンを裂く為に集まっていたのです。

「パンを裂く為に集まった」と言うことは、聖餐式の交わりのことです。そして、彼らと語ったり、話し合ったりしたのです。ところで、日本語訳では「語り合った」となっていますが、ギリシャ原語は「ホミレーサス」で、「説教」のことを指します。パウロは、決別説教をしていたのです。

ユテコ(幸運)と言う青年も、この集会に参加していました。会場はほぼ満員で、窓に腰掛けていたのです。しかし、あまりにもパウロのメッセージが長く続くものですから、彼はついとうとうとし始め、そして三階から落ちてしまいました。医者ルカが駆けつけた時には、すでに死んでいました。そこにパウロが降りて来ます。そして「彼の上に身をかかめ」ます。これは、預言者エリヤが、やもめの一人息子が死んだ時に行なったことと同じです。その息子は生き返ったのです。

パウロが、「心配することはない。まだ命があります」と言ったのは、すでに生き返った後の言葉です。そして、パウロは三階に戻り、明け方まで説教を語り続け、トロアスから出航しました。ユテコも、見送る人々の中にいたのです。最後にルカはこう締めくくっています。『人々は生き返った青年を連れて帰り、ひとかたならず慰められた。』と。

確かに、居眠りして三階から転落した青年ユテコの不注意であったかも知れません。またパウロの説教が、あまりにも長かったかも知れません。しかし、この出来事を通して、人々の心の中に、主イエス様こそが真の神様であることが、深く刻まれたのです。後のユテコのごことは、聖書には書かれてはいませんが、主イエス様の忠実な僕として用いられ、素晴らしい働きをしたことは、間違いないと思われまます。》

お知らせ

※10月30日(日)第五主日礼拝は、今年最後の特別メッセージです。11月6日(日)の第一主日礼拝は、牧師の都合によりお休みします。